

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大河原町立金ヶ瀬小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校, 各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 989-1224
宮城県柴田郡大河原町金ヶ瀬字居掛け21

E-mail kanasyo@ogawara-k.miyagi.jp

Website <http://www.ogawara-k.miyagi.jp/kanasyo/>

幼児児童生徒数 男子 122 名 女子 102 名 合計 224 名
幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1, 2-1 に対応

学校の教育目標を「自ら学び、豊かな心と創造性をもち、たくましく生きる子どもの育成」とし、ESD の実践を通して、地域の伝統や文化、施設、そこに住む人々などから学び、地域全体を大切にしてく意欲を高めることを目標として取り組んでいる。

具体的には、地域との連携を柱に、①伝統芸能「提神楽」の学習、②地層の学習、③老人施設訪問、④牛の飼育、リンゴの収穫体験を行った。

① 地域の伝統芸能である提神楽に係る学習

本校では、明治時代に地域に伝えられた提神楽を昭和 58 年から、総合的な学習の時間やクラブ活動の時間に取り組んでいる。提神楽の中の剣舞とお囃子に分かれ、お囃子を担当する児童は 4 年生からクラブ活動の時間に、また剣舞は 5 年生の 3 学期から練習を開始している。そして、6 年生が地区の祭りや学習発表会で発表している。さらに、1 月からは、6 年生が 5 年生にやり方を教え、2 月の引継ぎ式で正式に伝統を引き継いでいる。

②地域の地層に係る学習

地域に住む地層に造詣の深い方を講師として、地域の地形や地質を調べる活動を行った。地域の地質を表す地図をもとに、色を塗り、年代や特徴を学んだ。また、金ヶ瀬地区内の実地調査を行い、地層や化石の説明を受けた。児童は、露頭、ノジュール、整合、不整合、おぼれ谷、ピソライト、クロスラミナーなどの実物を見ながら、地層や化石の特徴を学んだ。さらに2500万年前の地層から取り出した岩石から、ダオネラ、パクテン、スパイク、コハクなどを採掘した。

③老人施設訪問に係る学習

学区内にあるデイサービスを訪問し、お年寄りとかかわる交流を深めた。

児童が学習し暗唱した「寿限無」、「早口言葉」、「かく」、「そうだ村の村長さん」などをグループ毎に発表した。また、学習した合唱曲を披露した。曲の途中には、手話も取り入れて歌った。「茶つき」では、お年寄りと手合わせ遊びをしながら歌った。最後に児童が作ったメッセージ入りの「草花のしおり」をプレゼントした。

④牛の飼育、リンゴの収穫体験

低学年の児童が、地元の高校に出向き、牛の飼育とリンゴの収穫の体験をしている。高校の生徒が、牛の飼育の仕方やリンゴの収穫の仕方を優しく児童に教えてくれたので、児童は楽しく体験することができた。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名)

特になし。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

志教育，協働教育，ふるさと教育の一環として，指導計画に位置付けている。年度末に全職員で指導内容を振り返り，改善が必要と考えられるときには，より適切な指導内容になるようにしている。

特に，デイサービス訪問は，昨年度に行ったところ，お年寄りがとても喜んでくださり，ぜひ来年度以降も続けてほしいという要望があった。また，児童もそれまで学習したことを披露することで，たくさんの方々に喜んでもらえることを知り，やってよかったと思った児童がほとんどであった。そのような理由から，年度末の職員会議で，継続して行うことに決定した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため，どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度末の会議で，1年の活動を振り返り，反省をする。改善すべきことは，次年度の教育計画や年間活動計画に反映させ，ねらいに迫れるようにしている。

また，外部機関と事前に連絡を取り合い，充実した活動になるようにしている。さらに，事後には礼状を書き，お世話になった方々に送り，次年度以降もつなげるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と，それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学期毎に職員評価を行い，成果と課題を出し合った。さらに，話し合いをして，課題の克服の方法を探り，共通理解をして実践していくことにした。

「堤神楽」の剣舞やお囃子の練習に自主的に取り組み，すばらしい神楽を披露することができた。また，引継ぎ式の前には，休み時間にも6年生が5年生に教える姿が見られた。自分たちで，伝統を継承していこうとする意欲が感じられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

「堤神楽」の練習の成果を学芸会で発表することで、地域の伝統を低中学年の児童や保護者、地域の方々に広めることができた。披露した児童は、たくさんの方々から盛大な拍手や賞賛の言葉をもらい、自分たちの取組に誇りを持つと同時に、地域の伝統をこれからも伝えていこうとする意欲が高まった。在校生も地域に伝わる伝統文化がどのようなものなのかを知ることができ、高学年になって取り組むことに親しみを持つことができるようになった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

堤神楽保存会の方々に学校に来ていただき、堤神楽の歴史を教えていただいた。さらに、剣舞やお囃子を見せていただいたり、教えていただいたりした。

児童は、JA女性部の方々からサツマイモの植え方、育て方の指導を受け、実際に育て、収穫することができた。さらに、ヘルスメイト(食生活改善推進員)の方々から、サツマイモやジャガイモを使った料理を教えていただきながら作り、おいしく食べることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今後、本校と同様に伝統文化の継承をしている学校と交流を図り、将来にわたって継承するために必要なことを考えたり、互いの剣舞やお囃子の様子を見て工夫を考えたりしたいと考えている。地域の中学校でも、同じ神楽を行っているので、情報交換をしていく。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

「堤神楽」の剣舞やお囃子を通して，児童は地域の伝統を守り，将来に渡って継承していこうとする意欲が高まってきている。休み時間にまで 6 年生が 5 年生に自主的に教える姿が見られた。

地層に造詣の深い地元の方と，地域の地層，化石を見に行き，説明を受けることで，理科に対する興味・関心が高まり，地域の良さにも気付くことができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

総合的な学習の時間に堤神楽の継承を行う。6 年生が中心となって，堤神楽の練習に取り組み，学習発表会で披露する。また継承していくために，6 年生が 5 年生に教える期間を設ける。そして，2 月に引継ぎ式を行い，6 年生，そして 5 年生が剣舞とお囃子を披露する。その様子を全校児童が見て，神楽を継承していく意義を知る。地域の伝統文化を大切にしたい意欲を高める。

6 年生の理科の授業で，地域に住む地層に造詣の深い方を講師として，地域の地形，地質を調べる活動を行う。そして地域の良さに気づき，大切にしていこうとする意欲を高める。

デイサービスを訪問し，お年寄りとの交流を深める。地域の人々を知り，地域の人々と地域社会を築いていこうとする意欲を高める。